

東アジア障害学フォーラム 2022 2022年2月27日

優生学の遺産——生殖、女性の身体、そして医療技術

要旨

優生学では一貫して、「遺伝的」または「不治」の疾患・障害という医学モデルに基づき、女性の身体を子孫の選別のための「防波堤」としてきた。障害のある女性をめぐる複合差別は、消極的優生学としての強制的な不妊手術や中絶だけでなく、積極的優生学である遺伝性ヒトゲノム編集のような生殖医療技術が行使される局面でも、優生学的な問題に深く結びついている。問題の背景には女性に偏る生殖役割の重さが存在する。性と生殖と医療技術の望ましい関係について、女性の身体を基準に検討する必要がある。